丸善・丸の内本店で開催 本学図書館の貴重書展

「ムーサの神殿」に1200人

本学が誇る和洋のコレクションや貴重書の中からよりすぐった100点を紹介する「専修大学図書館『特選』貴重書展　ムーサの神殿～時代を超え語り継がれた書物」は、好評のうちに終了（6月13日から19日まで開催）。会場の東京千代田区の丸善・丸の内本店のギャラリーは連日、多くの来場者でにぎわい、1200人にのぼった。

▲ フランス革命の関連史料を前に日高義博学長（右）と坂田隆・石巻専修大学長（左）

▲ 荒木敏夫副学長（中央）、大庭健図書館長（右から2人目）らによるテープカット

「ミシェル・ベルンシュタイン文庫」によるフランス革命期史料や蜂須賀家旧蔵の文書・典籍類、さらには西洋の名著・古典初版本など本学図書館所蔵の「特選書」を学外で一挙に展示したのは初めてのこと。

なかでも人気があったのは、今年千年紀を迎えた『源氏物語』や御伽草子「七夕のさうし」などの巻物、「ルイ16世の遺言書」「人権宣言」などフランス革命関連史料、世界で初めて複式簿記について記したルカ・パチョーリの「スムマ」など。

訪れた人は、古典文学の研究者や大学生のゼミのグループ、買い物帰りの人などさまざまで、「きわめて貴重な書を見ることができた」「展示品の質の高さに驚いた」「専大の図書館でもう一度見ることができないのか」など多彩な展示品に感動の声や質問が多数寄せられ、2回、3回と訪れたリピーターもいた。

来場者に配られた、全作品を紹介したパンフレットも好評だった。

展覧コレクションの背景や価値を解説

特別展を記念して石黒吉次郎、近江吉明両文学部教授による関連の講演会が6月14日、同書店の日経セミナールームで開かれた。

大庭健図書館長のあいさつのあと石黒教授は「ミシェル・ベルンシュタイン文庫」が語るフランス革命」と題して講演。展示物の歴史的背景や価値をわかりやすく解説。60人の聴衆が聴き入った。

▶ 石黒吉次郎教授の講演

近江　吉明教授

蜂須賀家旧蔵本 M・ベルンシュタイン文庫

石黒教授　近江教授

「蜂須賀家旧蔵本と大名家の文化」、近江教授は「ベルンシュタイン文庫」は、平安時代以降の和歌文学や物語の類であり、いずれも価値が高いものだ。武家による公家文化摂取の伝統をよく示している」と解説した。

続いて近江教授が登壇。4万7000点を超える「M・ベルンシュタイン文庫」には、フランス本国にもない貴重な史料が存在していることが明らかになっている。その一つ、オートロワール県（革命時はル・ピュイ）市の第三身分（一般庶民）による陳情書について本講演で取り上げた。全国三部会（1789年5月開催）に向けて作成されたこの陳情書を解読し、地方の民衆が革命に何を求めていたかを明らかにした。

近江教授はさらに「実態をありのままに伝える史料から、フランス革命を再検討する必要がある。そういった意味で今後ますます、『ベルンシュタイン文庫』が果たす役割は大きくなるだろう」と結んだ。

石黒教授は「近世の大名家は漢籍や古典籍に興味を持ち、収集していた。阿波国徳島藩の藩主・蜂須賀家はその典型であり、収集物は膨大な規模であった。本学所蔵の蜂須賀家旧蔵本の多くセネシャル管区）ル・ピュイ市の第三身分（一般庶民）による陳情書について本講演で取り上げた。全国三部会（1789年5月開催）に向けて作成されたこの陳情書を解読し、地方の民衆が革命に何を求めていたかを明らかにした。

近江教授はさらに「実態をありのままに伝える史料から、フランス革命を再検討する必要がある。そういった意味で今後ますます、『ベルンシュタイン文庫』が果たす役割は大きくなるだろう」と結んだ。

キャリアデザインセンター課題解決型インターンシップ始動……❸
寄稿「道路特定財源を例に政策論争を考える」太田和博商学部教授❹
文学部心理学科と人文学科社会学専攻で新入生合宿……❺
就職特集　希望の就職をかなえるために……❼～❿
石巻専修大学　簿記インカレ2、3級で優勝……⓬
北海道短大　第40回北鳳祭を開催／春期父母懇談会開く……⓭

ニュース専修
●「専修大学」ホームページ● http://www.senshu-u.ac.jp/
毎月1回15日発行
（定価一部90円）
発行所
専修大学広報課
〒101-8425
東京都千代田区
神田神保町3-8
☎03-3265-5819（直）

テレホンサービス
（お知らせ・緊急連絡）
0180-994-994

本紙へのご意見をお聞かせください
koho@acc.senshu-u.ac.jp

ナツツバキ

つばき科の落葉高木。サザンカ、チャノキなど常緑樹の多いつばき科の中では珍しい落葉樹。樹皮はところどころはがれ、きれいなしま模様になる。（2003・6・27撮影）

タマアジサイ

ゆきのした科の落葉低木。名は球形の花芽に由来。中央の花が種子をつける普通花で、周りの白い花はがく片が変化した装飾花。（2003・7・28撮影）

ヤマユリ

ゆり科の多年草。香気の強い大きな花をつける。神奈川県の県花。（2003・7・28撮影）

ネムノキ

まめ科の落葉高木。羽状複葉の小葉は夜には葉を上向きに閉じる就眠運動をする。淡紅色の雄しべが目立つ頭状花序を付ける。（2003・6・30撮影）

オカトラノオ

さくらそう科の多年草。尾のようにのびた白い総状花序がよく目立つ。（2004・6・19撮影）

カラスウリ

うり科のつる性多年草。花弁の縁は糸状に分裂する。夜に開花し大型のガが花粉を媒介する。雌雄異株。（2002・8・10撮影）

＜生田緑地の魅力…豊かな植物相＞　カメラを持って散策してみよう

生田キャンパスに隣接する生田緑地は、多摩丘陵の東の端にあり、川崎市の中では最も広い緑地公園。最大の特徴は野生植物の種類の豊富さだ。これまでに700種を超える種子植物が記録されている。都市部の緑地公園でこれだけ豊かな植物が残されている所は珍しい。この豊富な植物相が保たれているのは、生田緑地がほんの数十年前まで多摩丘陵全体に広がっていた里山の自然を残すように管理されているからである。

遊歩道が完備されているので、短時間散策するだけでもさまざまな植物を見ることができる。青少年科学館で「生田緑地ガイドマップ」をもらい遊歩道を歩けば、高木層にはクヌギ、コナラ、イヌシデ、ミズキ、コブシ、ヤマザクラ、ケヤキ、ハンノキなどの落葉樹が、低木層にはヤブムラサキ、ムラサキシキブ、エゴノキ、キブシ、オカウコギ、ヒメコウゾなどの落葉樹やアオキ、ヒサカキ、シロダモ、ヤツデ、シュロなどの常緑樹がよく見られる。

また、緑地の地形は起伏に富んでいるので、尾根や斜面、平地、湿地などの環境の違いによる植物の違いも実感できる。多様な植物が生育するのでそれらを餌や、すみかとする動物や昆虫もまた数多く見られる。運がよければタヌキやカワセミ、ホトトギス、カルガモなどの動物や野鳥、ガマガエルやアオダイショウなどの両生類や爬虫類、あるいは瑠璃色のハチ（ルリモンハナバチ）などの珍しい昆虫も見られるかもしれない。

緑地を散策していて気になった植物については、その場で観察したり、カメラに記録したりして後で名前を調べるなどするとよい。専修大学自然科学研究所のウェブ上に今年公開された植物アルバムには、生田緑地とキャンパスでよく目にするおよそ240種の野生の樹木と植栽木が網羅されているので、名前のわからない花や植物を簡単に確認することができる。

今年度中には、約360種の草本植物を載せたアルバムもウェブ上で公開される予定である。ぜひ、有効に使っていただきたい。

（自然科学研究所）

〈上の写真は夏に生田緑地で見られる植物〉
専修大学自然科学研究所の植物アルバムから抜粋したもの。

08専修大学カップ 神奈川県学童軟式野球選手権大会

8月2日開幕

創立130年記念事業の一環として「2008専修大学カップ　神奈川県学童軟式野球選手権大会」【主催＝神奈川県野球連盟、専修大学、後援＝神奈川県教育委員会、テレビ神奈川、神奈川新聞社】が8月2日、横浜スタジアムで開幕する。7日の平塚球場での決勝に向け、54チームが熱戦を繰り広げる。